

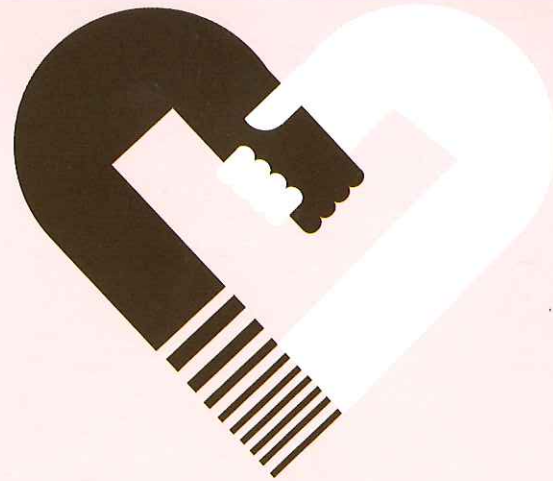
2011.4.1号 特集

迷走・亡国の民主党政権

輿論サークル

5

ながせ甚遠



今、信じあえる社会を、あなたと
Together

● 輿論サークル加入のお願い ●

輿論サークルにご加入いただきますようお願いいたします。入会を希望される方は下記事務局までご連絡ください。

〈輿論サークル事務局〉

〒107-0052 東京都港区赤坂9-2-9 カルム赤坂104号

tel.03-5775-5715 fax.03-5775-5716

「愚」と「暴」と「失」の政権

嘆木 太郎

政権交代が行われてからはや一年以上経ったが、この間の政治の世界を総括すると、表題の三つの漢字に集約されるのではなからうか。

「愚策」「愚人」「愚弄」の「三愚」、「暴挙」「暴言」「暴庄」の「三暴」、「失策」「失言」「失望」の「三失」などと枚挙に遑がない。「愚策」についてはインターネット検索で「菅内閣の政策・Wikipedia」の項を見ることができ、よくもこんな馬鹿げた政策を次から次へと掲げてやってきたのかということに改めて痛感させられる。読者諸兄には是非一度インターネット検索をされ、お読みになるこ

とをお勧めしたい。

「暴」については、過去に例を見ない強引な国会運営には憤りを感じるが、マスクミはほとんどそのことを伝えないことに怒りを覚え、自衛隊を「暴力装置」とつい本音を漏らす官房長官にはただだだ呆れるばかりである。

「失」については、上記の三失だけでなく、北と南の我が国の領土も失いかねない、或いは実質的に失ったも同然の事態を招来してしまっている。

長い自民党政権の時代にもいろいろなことがあったが、これだけ短期間にでたらめをやられると、やられる方は堪ったものではない。

この政権を選んだ国民にも大きな責任があるが、政権交代を期待した論調で報道し続け、政権交代後の、たとえば事業仕分けのような茶番のパフォーマンスを、さも自身も正義の味方のように賞賛的に取り上げてきたマスコミにも文句を言

たいところである。

この政権が掲げているマニフェストや公約にはこれからも国益を損なうような政策が多くあり、一日も早く退場してもらおうしかない。

「愚」から「賢」、「暴」から「整」、「失」から「得」或いは「徳」の方向に大きく舵を切ってくれる政権の登場を願って止まない。

さもないと、我々の子孫の時代には日本には産業がなくなり、場合によっては国そのものが無くなってしまっているのではないか、多くの人々が危惧し恐れていることが現実の問題になってしまっているのではないかと痛感している今日この頃である。

(2010年11月)

判官贔屓の気概

内閣府認証NPO法人

日本トラベルヘルパー(外出支援専門員)協会

理事長 篠塚 恭一

大相撲九州場所二日目、横綱白鵬の連勝が稀勢の里によって阻止された。

体躯にも恵まれた稀勢の里は、早くから注目の若手と言われていたが、今場所は関脇から前頭まで番付を落としていた。追い詰められての金星である。

モンゴルの横綱が土俵を割った瞬間、場内は大きな拍手と歓声に沸き、テレビは速報を流した。

無心だったという稀勢の里に対して、土俵下に転げ落ちた横綱は茫然としている。

「自分にスキがあった」と潔く語る横綱。この

人柄だから日本にもファンが多く、今場所の連勝大記録への期待も高かった。

しかし、一方では「いったい誰が白鵬を負かしてくれるのか」と、無敵の大横綱に挑む格下ばかりとなった日本人力士へ、判官鼻眞の期待は高まっていた。

歓声は、名横綱双葉山の連勝記録が守られた安堵と、昨今外国人力士ばかりが活躍する相撲界で、日本人が一矢報いたという感激が入り混じったことだったろう。

先日講演で訪ねた最上からの帰り、奥州に伝わる源氏落人の話を聞いたので、前にモンゴルへ旅した時のことを思い出した。

観光で仲良くなった日本語ガイドのモンゴル青年に義経伝説のことを聞いてみたくなった。むろん、冗談半分のことだった。

日本には人気者の判官義経にまつわる逸話があつて、その一つに奥州で死んだとされる義経が、

実は難を逃れて樺太から大陸に渡り、チンギス・ハーンになってモンゴルを建国したという話があるが、どう思うか・・・と。

すると、彼は血相を変えて「なにを言うか、チンギス・ハーンはモンゴルの英雄に決まっている」と不快を露わに強い口調で言い切ったのだ。

なるほどモンゴルの男は誇り高いと聞いていた。しかし、携帯電話を巧みに操り、日本の若者ともさほど変わらぬ暮らしをしている彼がまた、牧民から国を統一した祖国の英雄に対して大きな誇りと深い尊敬の念を抱いているのがよくわかった。穏やかな青年の気迫に一瞬たじろいだだが、無垢な愛郷心を肌で感じて嬉しくなった。

首都ウランバートルには、チンギス・ハーンと並ぶ独立の英雄スフバートルの騎馬像が立つスフバートル広場がある。周囲を国会議事堂や政府宮殿、中央郵便局に囲まれ、正面には大きなチンギス・ハーンの像が鎮座する観光名所である。ここ

で目立つのが、大関昇進の時から飾られているという巨大な白鵬のポスターだ。

そこには、「強いモンゴルをつくろう」と書かれている。モンゴル人は、今も強さを貴ぶ民族だと教えられた。

その一角に美しい国立オペラ劇場があるのだが、この建物は、ソ連に抑留された日本軍兵士の強制労働によって建てられたというので複雑な思いがしたのを覚えている。

昨今の尖閣諸島や北方領土問題に対する政府の対応はわかりにくく意志が見えない。

あのたった一人のモンゴル青年の気迫にさえ及ばぬように思える。強行な態度をとればいいとは思えぬが、誰の話聞いてもよくわからないままだ。

不祥事続きで場内には空席が目立ち、危険だからとこれだけの名勝負に座布団の舞うことが無くなった大相撲も盛り上がり欠けて寂しいが、今

の国会もそれと重なり空しく見える。

後日、となりの中国ではチンギス・ハーンが偉大な中国人の英雄として語られているのを知り「強いモンゴル」では中国人には何と言うのか気になった。

(2010年11月)

